

続・トブリシタメロフ

登場人物 男1／兄

女1／スタバの店員

女2／妹

男2／料金所の人

5人の客

男1、椅子を持ってやってきた。

手を前に、空中で何かを持っている仕草。

どうやらこれは、車のハンドルである。

ハンドルの感触に満足すると、おもむろにエンジンを掛ける。

男1 キュルキュルキュル、ブオーン。ぶおんぶおん。

そして走り出した。

男1 ぶーーん。ぶんぶーん。

女1、やってきて、

女1 すいません。

男1 はい。

男1にだけスポットが当たり、ストップモーション。

女2やってきて、客席に向かって喋り出した。

女2 こちらはうちの兄ちゃん。なんか運転しています。と言っても本物の車に乗っている訳ではありません。だってこうちん中です。リビングです。リビングに椅子を持ってきて、ああやってずっと何かを運転しているのです。うちは兄と私一人暮らし。両親は居ません。唯一の家族である兄ちゃんがこんな風になってしまってほんと困り果ててしまった私は、良く行くスタバの店員さんに相談しまし

た。するとわざわざうちまでやって来てくれて、

女1 妹さんから頼まれてまして。

男1 え？なんですか？

女1 妹さんが、困ってるみたいなんです。

男1 え？（聞こえない）

女1 あ、（大きな声で）今走行中ですか？

男1 ああ、はい。

女1 窓、開けて貰ってもいいですかね？

男1 え？

女1 窓。

男1 窓？

女1 はい。コンコン。

男1 それちゃんと開きますか？

女1 開くでしょう、これ自動車ですよ？

男1 自動車というか、トラックです。しかも軽の方。軽の方のトラックです。

女1 そうなんですか。

男1 軽の方で充分だと思っんですよね、私は。

女1 軽のトラックでも自動車には変わりないですから、きっと窓は開きますよ。コンコン。

男1 開くかな、中古なんでね。ウーン。

女1 あ、開きましたね。

女1、車内に手を入れようとする。

が、男1がそれを手でぎゅぎゅる。

女1 ん？

男1 開いてないですから、窓。

女1 あれ、今開けたんじゃない？

男1 軽のトラックなんで、電動じゃないです。手でクルクル回す奴です。

女1 なるほど。じゃあクルクルやって下さい。

男1 その方が安いですからね、きつとね。

女1 そうですね、あの、窓を。

女2 と言った真合に、兄を止めようとしてくれたんです。しかし、  
男1 ぶーん。  
女1 あの？  
男1 はい。  
女1 …お兄さんは、今どちらへ向かってるんですか？  
男1 今日はですね、青森です。  
女1 青森？あら、また遠いですねえ。  
男1 とりあえず高速乗りますよ。  
女2 兄ちゃんの目の前にはア、パートの壁ではなく、高速道路が続いているらしく。  
男1 (看板を見て) 名神高速道路、これよし。  
女1 ここ、どこですか？  
男1 名古屋だね。  
女1 だとすると名神高速乗っちゃダメですよ。  
男1 え？  
女1 青森は東京方面ですから、東名高速乗らないと。  
男1 …キキキー！！  
女1 あとですねお兄さん。  
男1 名古屋はこういう時ややししいんだよ。  
女1 高速道路は止まっちゃダメです。  
男1 は？  
女1 追突されますよ。  
男1 それいかん！ぶーん！  
女1 あ、あと、  
男1 なににもお？  
女1 私も乗せて下さい。  
男1 は？  
女1 このままだと私、どういう状態かわからないので。  
男1 もお、はよ乗って！

女1、男1の斜め後ろに立つ。

女2 スタバの店員さんも兄ちゃんの車に乗っちゃいました。一体どこまで付き合おう気なのか…、  
女1 とりあえず次のインターで降りましょうか。  
男1 くそ、こんなところで回り道してる場合じゃねえのに…。  
女1 お兄さんは、青森に行つて何をされるんですか？  
男1 え、青森に行つて何をされるのかって聞きました？  
女1 ええ。  
男1 逆に聞きますけど青森に行つて何をすると思っんですか？  
女1 うん、それがわからないから聞いてるんですけど？  
男1 青森に行く人に青森に何しに行くのか聞いてちゃダメでしょ普通。  
女1 え？  
男1 青森に行くんだから、青森に行くのが目的じゃないですか。  
女1 青森に行くことが目的…？  
男1 そうです。  
女2 (女1に) 兄ちゃんは運送屋さんになりたいんです。  
女1 運送屋？  
男1 うん、そうや。  
女2 いつもこうなんです。  
男1 ブーン。  
女2 兄ちゃんは、日本で一番目に速い運送屋になりたいんです。  
女1 日本で一番目に速い運送屋？  
男1 うん、そうや。  
女1 どうして一番じゃないんですか？  
男1 一番は、もう居るからね。  
女1 え？  
男1 こんな軽のトラックじゃなくてさ、もっと大きいのが、大きい方に乗ってさ、女のくせに速いんだよ  
あ、の野郎。あ、女だからあのメロウ。  
女2 雪の山道でその人に助けて貰ったんだそうです。  
女1 え？  
女2 兄ちゃんはバスツアーの添乗員をやったんですけど、雪の山道で迷子になってしまったんです、  
五人のお客さんを運れたまま。それ以来ずっとこの調子なんです。  
女1 なるほど、お兄さんは運送屋になつて何を運ぶんですか？

男1 : 誰この人?  
女2 私が良く行くスタバの店員さん。  
男1 なんてスタバの店員さんなんか連れて来とんだ?  
女2 相談したら乗ってくれたから。  
男1 何を?  
女2 兄ちゃんの事。  
男1 俺がなに?  
女2 だって兄ちゃんずつと運転してるじゃん。  
男1 あのねスタバの店員さん。運送屋に何を運ぶのかなんて聞いちやダメでしょ普通。だって運送屋は運ぶ事が仕事ですから。じゃあ逆に聞きますけどスタバの店員さんね、運送屋さんは普段何を運ぶと思っ  
うんですか?  
女1 まあ運送屋にもいろいろありますから、  
男1 なんでもですよ。  
女1 なんでも?  
男1 運べと言われればなんでも運びますよ。だって運送屋さんは中身をいちいち確認するんですか?箱  
開けて。そんな運送屋さんどう思っんですかスタバの店員さん。  
女1 えっと…、  
男1 何を運ぶのかわからないけどそれを運ぶ。それが運送屋さんじゃないですか。  
女1 はい…。  
男1 スタバの店員さんね、イイ?自分の仕事に置き換えてみたら分かるんじゃない?あなたいつもスタ  
バの店員さんやって何運ぶのか分かって運んでるんですか?て事です。  
女1 …え?  
男1 だからコーヒーだって言われてコーヒー運んでる気持ちになってるんですか?て事です。  
女1 はい?  
男1 それがアイスコーヒーかもしれないよね?  
女1 でもコーヒーとアイスコーヒーは見たら分りますから、  
男1 見たらわかるの?  
女1 氷が入ってますから。  
男1 じゃあ良いんじゃないそれで。イイ店員さんじゃない?  
女1 はあ…。  
男1 でもこれはただの譬えだからさ、譬えがちよつと簡単になつちやっただけの話でね、これが本日の

コーヒーだつたらどうなの?その本日のコーヒーはホントに本日のコーヒーなのか?て話ですよもし  
かしたらそれは昨日のコーヒーかもしれない。それあなた分かって運んでるのか?て話ですよ?  
女1 は?  
男1 だから本日のコーヒーはいつ昨日のコーヒーから本日のコーヒーになったのか?て話ですよ。12  
時?  
女1 えっと、確かに昨日の「本日のコーヒー」と同じ物を提供するって事もありますが、  
男1 だよな?だつたらそれは昨日のコーヒーだよな?  
女1 でも昨日の本日のコーヒーと同じ物なんですけど、今日は、これが本日のコーヒーで、  
男1 え?何言ってるの?昨日が今日で今日が本日?は?なんかもう訳分からんのだけだ。  
女1 ですから、昨日の本日のコーヒーと同じ物でも、今日の本日のコーヒーは、今日ちゃんと淹れた物  
で、  
男1 うん違う違う。あなたは、ね?その両手に持っているのが、どっちが昨日のコーヒーか、本日のコ  
ーヒーか、分るんですか?て事です。  
女1 えっと…、  
男1 どっちも同じなんだよね?  
女1 はい。  
男1 じゃあ分らないよね?  
女1 まあ、見た目は同じ、  
男1 見た目だけじゃないでしょ、味も同じなんだよね?  
女1 はい。  
男1 じゃあわかんないじゃん。  
女1 でも昨日の本日のコーヒーが、今日の本日のコーヒーになって出てくる事はないですし、  
男1 え、どういう事?  
女1 えっと、それは管理の問題で、  
男1 だつてわかんないでしょ?同じなんでしょ?  
女1 はい。  
男1 ねえ?  
女1 はい。  
男1 うん。  
女2 二人とも何話してたのか忘れちゃったみたいです。  
男1 イイ?スタバの店員さん。

女1 あ、はい。

男1 俺はね、冷蔵庫を運べと言われれば運ぶし、冷蔵庫を運ぶと言われれば運ばない、そういう人になりたいですよ。

女1 はあ…。

男1 そういう人が居るんですよ、世の中には。

女1 …はい。

男1 そういう話ですよ。

女2 兄ちゃんそれ普通の話だよ。

男1 何が？

女2 それ普通の運送屋の仕事だって、当たり前の話だね。

男1 お前はもうまったく話にならないな。これを普通の運送屋の話にするのかそうじゃなくするのかわお前の心持次第だって言ってるだけ。

女2 こいついう心持とか出てくると余計訳わからんのですよ。

男1 ちゃうて、お前が普通の話だって思った時点でもうお前は普通の人間なんだわ。これを普通じゃない話だって思ったら、お前は普通じゃない人間なんだわ。

女2 うん、で？

男1 で？ってなに？で？って言われてもそれだけだわさ。それが理解出来るか出来るかわ、お前が理解出来るか出来る奴かが分かるんだわ。

女2 うん、さつきからそのまんまの事しか言っとらんよね。

男1 そらそのまんまだわさ、何にも難しい事言っとらんがや俺。なのになんでそれが分からんのだてアホ。

女1 あのお、なつたらいいんじゃないですかね運送屋に。いいと思いますけどね私。

男1 だろお。

女2 兄ちゃん！

女2、男1の目の前に立つ。

男1 ちよおどいてくれ、前見えんがや。

女2 あんた免許持っていないがね。

女1 え、免許持っていないんですか？！

男1 免許持っとらんからなんだて。どけて！

女2、男1の隣に座る。椅子は無いのでその場に。

女2 無免許運転だが、捕まるよ。

女1 こ、高速ですよ？お兄さん、免許持っていないのに高速乗ってるんですか？

女2 兄ちゃんが事故するのはしゃあないわ、免許持っていないんだ。でもそれで他の車にぶつかったらどうすんの？誰か轢いたらどうすんの？

女1 私、降りたいですけど…。

男1 15のよーるー。

女2 都合の悪い時はすぐオザキ唄うんです。

男1 カーステ掛けとんだがや。

女2 カーステなんかついとるの？安い軽トラのくせに。

男1 窓クルクル回す奴にしたり、他で節約してカーステつけたんだわさ。

女2 ああ言えばこういうし…。

女1 あ、とりあえず高速降りませんか？もうすぐ小牧インターですから。

男1 おっ。

女1 ウィンカー出して下さい。

男1 カチ。

女1 それワイパーですね。

男1 ウィンウィンウィン。

女1 雨降ってませんから。

男1 えっと…

女1 逆ですね。

男1 こっちか。

女1 ホントに免許持っていないんだ。

男1 カチ、カチ、カチ、

女1 ゆっくり、なたらかに減速して。

男1 ぶっん。

女2 店員さん、もっいいですから。寝言も返事すると止まらなくなるって言いますし、

女1 あれが料金所です。

女2 店員さん？

男1 おう。

料金所の男2、やってくる。

女2 …？

男1 …ちよお、

女2 はい？

男1 俺金持っていない。

女2 はあ？！

男1 貸して。

女2 ちよお待ってよ、私だって持っとらんよ。

男1 なんて持っとらんのだてお前。

女2 部屋にある。

男1 持ってきて！

女1 あ、じゃあとりあえず私出しますから。

女2 ねえ、この人誰？

女1 (財布を開けて) あ、50円しかない。

男1 何やとんだて！

女1 だって高速乗るなんて思わなかったから。

男1 50円だけ持って外出るなてバカ！

女1 お願い出来ます？

女2 …あ、はい。

女2、部屋へ。

逆側から5人の警察やってくる。

男1 おい、あれ。パトカーだがや。

女1 落ち着いて下さい、まだ無免許だつてバレた訳じゃないですから。

男1 一台の車に5人もおまわり乗っとるがや！

女1 動揺しちゃダメです。

男1 ギュウギュウだがや！

女1 ジロジロ見ないで下さい。

男1 総理大臣でも来るんか…。

女1 妹さんが戻ってくるまでゆっくり、堂々と走って。

男1 総理大臣が名古屋になんの用があるんだて！

女1 出来るだけ普通の顔して下さいね。

男1 顔でなんとかなるならもうやととるて！

女1 ゆっくり、もつとゆっくり走って下さい。

男1 止まったらかん…？

女1 止まったらダメですよ、ここ駐停車禁止ですから。

男1 どうしよ…。

女1 止まったら近寄って来ますよ、警察。ほら、降りてきた。

5人の警察官、こちらを向いた。

男1 あーどうしよう、おいどうしよう…。

女1 妹さん、まだですかね…？

男1 (女2に向かって) おい！はよろつて！

5人の警察、一歩前に進む。

女1 近づいてきますよ…。

女2、戻ってきた。

足取りが重い。

男1 何やとんだて、走って来いよ。

女2 (5人に気づいて) …え、誰？！

男1 はよ、乗って！

女2、男1の隣に座る。

椅子は無いのでその場に体操座り。

女1 おまわりさん。

女2 おまわりさん?!

女1 動揺しちゃダメです。

男1 おい、金は?

女2 …。

男1 金!

女2 …うち、もうお金無かった。

男1 …は?なんでだて、無いつてどういう事?

女2 だって兄ちゃん仕事辞めたから、収入が、無い。

男1 …無いつて何?幾らも残つたらんの?

女2 (握りしめた小銭を出す) 55円しかない。

男1 なんで55円になるまでほつといたんだ。お前は今まで何をやってきたんだて。

女2 なんで私が怒られんといかんの?悪いのは兄ちゃんだがね。

男1 なんで俺のせいになつとんだて、お前がしつかりしとらんのが悪いんだろ!

女2 勝手に仕事辞めるあんたがいかんのでしょお!先の事なんにも考えとらんあんたが悪いんだがね!

男1 お前バイトは?

女2 しとるよ。

男1 その金は?

女2 学費で、全部払わないかん。

男1 何しとんだて、なんの為のバイトかわからんがや。

女2 なんの為のつて…、

男2 はい、こんにちは。300円。

その途端、皆ニコニコする。

男2 ん?

女1 (ニコニコしながら) とりあえず、これだけ渡して下さい。

男1 (以降同様に) 足りんがや。

女1 足りてる振りして渡してみてください。

男1 足りてる振りしてどういいう事?

女1 足りてる顔して下さい。

男1 足りてる顔つてなんだて。足りてる顔でなんとかなるならもうみんな足りてる顔やつとせよ。

女1 足りてる顔して渡されると、案外気付かないものなんです。私もスタバの店員やって、よくそれで騙されます。

男1 バカじゃねえのか。

男2 300円。

男1 足りてる顔になつとる俺?

女1 動揺したらダメです。

男2 ん?

男1 …あ、その前に窓開けないとね。ウイーン。

女1 電動じゃないんですよね?その脇の、クルクル回す、それです。

男1 ああ(クルクル)。

男2 300円。

男1 ああ、はい。

男1、105円を渡すと、

男1 ブーン。

男2 あ、ちよつと。

男1 はい?

男2 足りない。

男1 え?

男2 105円しか無いけど。

男1 あ、え?

男2 え、じゃなくて、全然足りないけど。

男1、女1を見る。

女1、寝ている。

男1 あ、300円だと思って出したんですけど。

男2 うん、105円しかないよ。

男1 あ、300円の顔して出したんですけど。

男2 うん、300円の顔して出されても、105円には変わりないから。

男1 あ、じゃあ105円の顔して出せば良かったですか？

男2 まあ、105円しか無いんだつたら105円の顔して出して貰った方が、こっちは助かるけどね。

男1 ああ、そうだったんですか。

男2 うん、びつくりしちゃうから、300円の顔してゐるのに105円しか無いと。

男1 そりゃあそうですよねえ。

男1、女1を見る。

男2 あれは寝てる顔してただけだから、ホントは寝てないから。

男1 あ、やっぱりそうなんですか。

男2 なに？105円しか無いの？

男1 まあ、105円しか無いと言われれば、そういう顔になっちゃいますね。

男2 ああ、そう、しょうがないなあ…

男1 え？

女2 このままではいけない。このままではうちの兄ちゃんも乗っていないのに無免許運転で捕まる事になってしまう。そんな事になってしまうとは、兄の運送屋になる夢も叶わなくなってしまう。

男2 じゃあねえ…

5人の警察官 ちよっと前が出る。

女2 このままではいけない、このままでは。キキキキキキ、ブーン！

男1 おい、お前何やとんだて！

女2 だつてこのままだと兄ちゃん無免許で捕まっちゃうじゃん！

男1 なんだで、もうちよっとであの人許してくれそうだったがや。

女2 キキキキキキ！ブーン！

男1 なんて急に左ハンドルになつとるんだて。

女2 (ルームミラーを覗き) 来る！

男1 何が？

女2 5人のおまわりさん。

男1 え？

男1、振り返ると、

5人の警察官がスケート選手のように走って追いかけて来た。

男1 おい、走って追いかけて来るがや。

女2 なんとかしないと、なんとかしないと。

男1 ちよお起きて、スタバの店員さん！

女1 はい。寝てません。

男1 どうしよう、料金所 金払わずに出てきたら、5人のおまわりさんが追いかけてきた。

女1 当たり前です。ちよつとあなた、免許持つてるの？

女2 持つてません。

女1 一緒じゃん。

女2 この道、どつちに行つたらイイですか？

男1 おい、どら追いかけて来とる。全然向こうの方が速いがや。

女2 こっちは車なのに…

男1 やっぱ軽のトラックだとこつという時にいかな。

男1、ハンドルを持つ。

女1 この車凄いですね、右にも左にもハンドルがあるんですね。

男1 え？

女2 え？

女1 世界初の、両ハンドルの車ですね。

男1 そんな車要らなくて、二つもハンドルついたらどら高いがや！

男1と女2、同時にハンドルを右に切る。

男1と女2 キキキキ。

今度は同時に左に切る。



女1 おお、さすが兄妹。

男1 あれ、でもなにこれ。全然上手いこと曲がれん。

女1 あ、これはですね。車には内輪差というのがありまして、曲がる時、内側と外側、同じような角度でタイヤは曲がつてる訳じゃないんです。内側の方を深く切らないと車は上手く回れないんです。

女2 へえー。

男1 おう、そんな豆知識ええて。

女2 じゃあお互い逆に切ったらどうなるんですか？

男1 割れるんじゃないの？車。

女2 割れるんですか？この車。

女1 試してみる価値はありますね。こういう話なんだから、もしかしたら割れるかもしれません。

女2 兄ちゃん。

男1 なんだて。

女2 もし車が割れて、警察が私の方についてきても、絶対戻ってきたらダメだからね。

男1 お前…。

女2 兄ちゃんは、運送屋さんになるんですよ。

男1 …うん、そうや。

女2 日本で一番目に早い、運送屋さんになるんですよ。

男1 うん、そうや。

女2 だから、絶対に逃げて。

男1 …妹。

女1、ハンカチを取り出して目頭を押さえる。

女2 あの交差点で。

男1 ちよお待て、

女2 何？

男1 俺の方についてきたらどうすんだて。

女2 …は？

男1 お前の方についてたらそれでええけど、俺の方についてきたらどうしたらいいんだて。

女2 …そんなん自分でなんとかしやあ。

男1 なんだて、最後まで面倒見てくれて。

女2 …なんだこいつ。

男1 俺の方がでっかい夢あるんだてな。お前みちや女なんだでこの先なんでもなるだろお。

女2 私だつて無免許で捕まったら退学になるかもしれないがね。

男1 ほらみる大学なんか行つとるもんでそんな面倒臭い事になつとんだわ。

女2 大学も自動車学校も行ってないあんたに言われたないわ。

男1 バカ、俺は今まで学校というものに逆らつて生きてきたんだわ。俺は学校なんていう狭い箱の中で

収まる人間じゃねえ。♪行儀良くましめなんてできやしなかった。

女2 カーステなんか聴いとる場合じゃないでしょお！

女1 もうすぐ追いつかれますよ、警察に。

5人の警察、どんどん近付いてきている。

男1 どうしよう…、怖い、あの警察。

女2 あの交差点で、兄ちゃんは右に、私は左に。

男1 スタバの店員さんは？

女2 え？

女1 え？

男1 あんたそんな真中におつたら身体真つ二つになつてまうがね。

女1 え、え？

女2 兄ちゃん、交差点！

女1 あ、ちよつと！

男1と女2 キキキキキキー！！

二人、同時に逆方向にハンドルを切る。

女1は後ろに転がる。

女2 兄ちゃんと私の、世界初両ハンドル軽トラックは、真ん中から真つ二つに割れました。そしてその

まま二輪車のように走行出来るのかと思いきや、

男1 あーあーあーあー、あー。

女2、転がり落ち、

女2 バラバラに分解されていきました。

男1 止まってまった。

振り返ると、5人の警察は相変わらずスケート選手のように走りながら近づいてきて、

3人を追い抜いて行ってしまった。

女1 あいたたた…。警察、行っちゃいましたね。

男1 なんだったんだ、あの連中。

女2 …良かった。

男1 良くねえて、俺の軽トラ無くなってまったがや。俺さんの為にハンドル持つとんだ。

女2 兄ちゃん、もうほんとにさ…、ちゃんとして。

男1 お前が余計な事するからだろお、もうちよつとで青森行けそうだったのに。

女2 何がもうちよつとなの？青森まで車でどんだけかかると思っとんの！

男1 俺を誰だと思っとんだ、日本で一番目に早い運送屋だぞ。

女2 だから免許持つとらんがね！

女1 お兄さん、焦る気持ちはわかりますけど、まあ正直わからないんですけど、ここは部屋ですから。

どれだけ走っても、部屋から出られませんから。

女2 そうだよ。

女1 まず運転免許を取って貰ってですね、その為に自動車学校に通って、その為にお金を蓄えて、

男1 そういう事じゃねんだよなあ…、

女2 なんなのじゃあ？

女1 でも免許無いと運送屋さんにはなれませんよ？

男1 …。

女1 お兄さんの入りたい運送会社に電話してみましようよ。もしかしたら免許取るまで面倒見てくれる  
かもしれない。

男1 俺は別に運送会社に入りたい訳じゃねえんだわ、運送屋さんになりたいの。

女1 個人で？

男1 個人でかなんか知らんけど。

女1 自分で事業を立ち上げるって事ですか？

男1 知りません、そういうややこしい話は。

女2 だからなんにしる、免許持つてないとき。

男1 免許免許うるせえなあお前は！

女1 お兄さんは、何かを運べればイイって訳ですか？

男1 まあ、そうだね。運送屋だから、うん、そつや。

女2 だから免許持つてないとき！

男1 あの女だつて一人でやつとつたもん。一人でつかいトラック運転してき、日本中走り回って、道

無き道を走り、けして後ろを振り向かない、ああいう女になりたい俺は。

女2 兄ちゃん男だがね。

男1 女に出来る事がなんで男に出来るんだ？

女2 だで免許持つとらんがね！

男1 いいか妹、本当の運送屋つてのはただ荷物を届けるんじゃないやねえんだよ、モノじゃねえんだよ、気持  
ちなんだよ。荷物は重いけど、その中にはその重さとは関係なくね、いろんな思いが詰まってるんだよ。

重い物軽い物、でかい物小さい物いろいろあるけどさ、思いが詰まってるんだよ。

女2 …。うんだで免許持つとらんと話にならんがね。

男1 響かん奴だなお前は…。

女2 だつて免許あつた方が遠くまで行けるがね。

男1 もう免許つて言葉止めて、頭痛いわ俺。

女2 後先考えずに仕事辞めて来るから。

男1 何言つとんだ、お前より俺の方が将来設計についてちゃんと考えとるわ。

女2 何を？どこが？

男1 運送屋になるつとつとるだろ。

女2 順序つて物があるでしょ！

女1 まあまあ、

男1 ほいでなんでスタバの店員さんに相談しとんだお前は。スタバの店員さんなのにこんなところに呼  
ばれても困つてまうがや。

女1 あ、いや…、

男1 常識が無いなお前は。

女2 言われたないわ。

男1 常識が。

女2 …だつて他に相談出来る人居なかつたんだもん。

男1 お前友達おらんの？  
 女2 居るわ。でもこんな事言える訳ないがね。  
 男1 その歳になって彼氏の一人も居らんお前の方が心配だわ俺は。  
 女2 人がせつかく心配しとるのに。  
 男1 だで俺の方が心配だつて言つとるがや。  
 女2 そうやって兄貴面するんなら車から降りてきてみやあ。  
 男1 なんで兄貴面するんなら車から降りないかんのだて、車からだつて兄貴面したるわ。  
 女1 ケンカしてもしようがないですからね。  
 女2 …もう帰る兄ちゃん。つて、ここウチか。  
 男1 キュルキュルキュル、ブォーン。ぶおんぶおん。  
 女2 兄ちゃん！  
 男1 (走り出した)ぶーーん。ぶんぶーん。  
 女2 兄ちゃんつてば！  
 男1 ぶーーん。  
 女2 もっ…！  
 女1 お兄さんは、何を届けたいのかしらね？  
 女2 え？  
 女1 今も、もう何かを運んでるんじゃない？  
 女2 …何を？  
 男1 ぶーーん。

とところでこの間ずっと、先ほどの料金所の男はその場から動かずに居て、

男2 もしもし？  
 男1 はい。  
 男2 お金払つて。  
 男1 あ、え？  
 男2 残り195円。  
 男1 あ、まだ居たんですか？  
 男2 うん、お金足りないからね。  
 男1 (女2に) おい、ちよおせつしよ。この料金所の人 ずっと付いてくる気だわ。

男2 そんな言い方しないでよ、お金払わないそっちが悪いんだからさ。  
 男1 ちよおなんとかして。  
 女2 (キョロキョロ見回し) あーまだ終わってなかったのか…。  
 女1 私、払います。  
 女2 え？  
 男1 あんた持つとらんでしょお？  
 女1 うち帰ったらあります。うちまで乗せてつて下さい。  
 男1 ヤダで、重なるで。  
 女2 スタバの店員さん…？  
 女1 大丈夫、任せといて。お兄さんが何を運ぼうとしているか、私が突き止めてあげるから。  
 男1 何言つとんだお前。

女1、助手席に座る。

男1 ちよお勝手に乗んなて、ドア無かった？  
 女1 はい。  
 男1 ドアねえんかて。どら安い車だが。  
 女1 お金取りに行つてくるんで、ちよつと待つて貰えます？  
 男2 どこ？  
 女1 豊田です。  
 男2 市外じゃないですか。  
 女1 高速だつたらすぐですよ。  
 男2 うんだから、通行料金まだ払ってないんだからね、  
 男1 ブーン。  
 男2 ちよつと。  
 男1 はい。  
 男2 …あなたさ、走つてる割には話しかけるとすぐ返事しますよね？  
 男1 (聞こえない) え？  
 男2 あ、ドア？  
 男1 は？  
 男2 (大声で) こつちにはドアあるんだ。

男1 え？

男2 まあいいや。あなたがこのスタバで働いてるって？

女1 あ、そのイオンです。

男2 じゃあそこでお金借りて来なよ、あそこなら近いから。

女1 えー、バイト先で？

男2 ガチャ。

男1 は？

男2、男1の隣に座る。

男1を真ん中に、女1と男2が並んで座っている。

男1 おい、どこ座っとんだて。

男2 私も行くんですよ、お金払わずに料金所を通過させる訳にはいきませんからね。

男1 ちゃうて、なんで両脇に助手席があるんだつうの。どら重いがや。

男2 あの、赤かピンクかわからない看板がイオンです。

女1 でもバイト先でお金借りるんですかあ？

男2 お金も無いのに高速乗ったあなた達が悪いんですからね。

男1 ぶーん。

男2 ちよつと聞いている？

男1 え？

男2 これはあなたの為にとやうな事なんですから、責任感して下さいね。

男1 どらうつとうしい奴が来た…。

男2 いいですか、あなたがどれだけ走っても、お金払わないうちは進んだ事にはなりませんから。

男1 おい、エアコンの風自分にだけ向けるなて。

男2 そつちドア無いのに、エアコンあるんです？

男1 うるせえわ。ちよおなんかレーシングカーみたいになつたらんこの車？

男2 え？

男1 なんにもたわ。あー、もう！

男1、カーステのスイッチを入れた。

♪「I LOVE YOU」

伴奏が流れて、唄い出す3人。

女2 スタバの店員さんの言うとおり、兄ちゃんは確かにどこかに向かっている。それはとても大切な物を運んでいるようにも見え、それを絶対に届けるんだという執念で走り続けているようにも思えました。しかし私にはそれが何か見当もつきません。青森に何があるのか。兄は本当に青森まで行く気なのか、そもそも青森じゃなきゃいけないのか。そしてこの料金所の人は何者なのか。勝手に人の家に入り込んで、「これは妄想ですから」と片付けるつもりなのか…、なんだかとても長い道程になりそうです。

男1 わ、何これ、どらでつかいイオンだが！

男2 え、どれどれ！

女1 一応行つてきますけど、あんまり期待しないで下さいね。

男1 お前こんなでつかいイオンの中のスタバに来とるんか！

女2 どのスタバだつて良いでしょお。

男1 そらすぐ金も無くなるわ。

女2 どういう意味だて。

男2 凄いい、豪華客船のようだ。

女1 あそこが駐車場の入口です。

男1 なにこれ、どらでつかいイオンだが！

5人の警備員がやつてきた。

男1 …警察？

女1 警備員ですわ。

警備員達 はい、こんにちは。

女1 機械から出てくる駐車券を渡してくれるんです。

男1 …これ五人も必要？

客1 入りますか？このでつかいイオンに。

途端 車の3人笑顔。

男1 …(笑顔のまま固まる)金取られるの？

女1 買い物したら、1時間は無料なんです。

男1 買わなканの？金無いって言っとんのに…。

客2 入りますか？このでっかいイオンに。

男1 …あ、入ります。

客3 入りますね？このでっかいイオンに。

男1 あ、はい…。

客5 入りますね？ このでっかいイオンに。

客4 入りますね？ イオンはでっかいですから、入れますか？

男1 え？

客1 入れますか？このでっかいイオンに。

客2 男1 …入れないんですか？ イオンに入れますか？あなたは入れますか？

客3 入れないと思えば入れませんよイオンはでっかいですから。

客5 男1 あ、はい…。 イオンはでっかいですから迷子になりますから。

客4 じゃあ帰りますか？イオンはでっかいですから、

客1 男1 …でっかいイオンに恐れをなして、

客2 男1 …帰りますか？このでっかいイオンから、

客3 男1 …帰れませんか？

客5 男1 …帰れると思ってるんですかあなたは？

客4 男1 …あなたは木を植えていますか？

客1 男1 …木は、植えてません。

客1 イオンは木を植えています。

男1 …はい。

客2 男1 …植えていますかあなたは？

客3 男1 …あなたは木を植えますか？

客5 男1 …植えますか？

客4 男1 …植えますか？

客5 男1 …でっかいイオンに木を植えますか？

客3 男1 …壊してまで木を植えるんですか？

客2 植えると言っんですか？

客1 そんな事がどうして出来るんですか？

客2 そんな事したら私達は失業してしまいます。

客3 どう責任とってくれるんですか？

客5 それでも植えますか？

客4 男1 …あなたにそんな勇気がありますか？

客3 愛してますか？

客2 愛してると言ってくれ。

客3 愛してる。

客1 イオンの中にはジャスコと200を超える専門店があります。

客5 男1 …専門店の中にはパン屋もあります。

客4 男1 …パン屋はパン作ってます。

客3 男1 …パンツ食ってる訳じゃないです。

客2 男1 …要らないパンツを、パンツ食い屋に持って行くと、

客1 男1 …専門の職人が一枚一枚丁寧に、

客3 男1 …パンツ食ってるんです。

客5 男1 …それが、

客4 男1 …パンツ食ってる専門店です。

客5 男1 …他にもハンガーバーシヨップなど、あらゆるお店がイオンには入っております、

客3 男1 …ハンガーバーシヨップは文字通りハンガーのバーだけを売っている専門店です。

客2 男1 …しかしハンバーのガーは売ってません。

客1 男1 …それはハンバーガーシヨップと呼ばれるお店に売っています。

その間、警備員達は駐車券をパスしている。

男1 男2 …はよ取って駐車券！

男2 …男2、駐車券を受け取り、

男1 男1 …ぶーん！

警備員達、不敵な笑みを残して去る。

男1 なににあの警備員！なににもお！

女1 お兄さんはどうも、不審者に見られがちですね。

女2 遊んではつかおるでたわ。

男1 これを遊んどると思っお前が遊んどるんだわ。

女2 出た。

女1 あ、あんまりスピード出さないで下さいね。お客さん居ますから。

女2 車から降りろ。

男2 はい(駐車券を渡す)。

男1 なんで俺に渡すんだて

男2 え？

男1 こういうの普通助手席におる奴が管理するんじゃねえの？

男2 お、いよいよですよ。

男1 どちらでつかいイオンだが一なにこれ。

男2 近くで見ると余計でかいね。

女1 ここの一階です。

男1 おいおい…

男2 うわ、天井も高いですねえ。

3人 見上げる。

女2 だて車から降りろつうの。

女1 そのユニクロを左です。

男2 ユニクロだ。

男1 (ハンドル切りながら) イオンは下絨毯だからな、滑りそうで怖いがや。

女2 車から降りろー！

女1 こゝです。

男1 サササー(止まる)。

男2 いいなあ、ぶらぶらしたいなあ。

男1 何しに来たんだお前。ちよおはよ取って来て。

女1 ああ、はい…、でも…。

男1 なにに？

女1 シャッター閉まつてるんですよ。

男1 は？

女2 え？

女1 なんで急に休みになつてんだろ？

5人の客 スタバのアイスコーヒーを飲みながら出てくる。

「ズーズー」言つてうるさい。

女2 スタバのコーヒー…。

男1 わ、さっきの警備員だがや。

女1 あ、それどこ買ったんですか？

男1 うるせえなあ、あいつら。

客1 旨いなあ、本日のコーヒー。

女1 あれが、本日のコーヒーみたいですね。

客2 旨いなあ、昨日のコーヒー。

男1 昨日のコーヒーあるがや。

客3 旨いなあ、この前のコーヒー。

男1 いつのコーヒーだて。

客4 旨いなあ、あの時のコーヒー。

男1 おい、どうなつとんだ。

女1 あの時の、ほろ苦い思い出が蘇つて来ませんか？

男1 何言つとんだてお前。

客5 旨いなあ、明日のコーヒー。

女2 明日のコーヒー？

男1 明日のコーヒーってなに？

女1 明日、目が覚めたら飲むコーヒーですね。

女2 そんなのあるんですか？

女1 明日になれば売つてるとは思つんですけど…。

女2 いいなあ、飲んでみたいなあ。

女1 あ、ハザードつけといて下さい。こーいオンの中なんで。

女1、去る。

男1 (スイッチ) これ？

男2 そうじゃない？

男1 ちよおあんたくつるぎ過ぎじゃないの？

男2 え？

男1 もう…、カチ、カチ、カチ。

女2 スタバが無くなると困るなあ…。

男2 (独り言) にしてもイオンはどこ行っても同じお店しか入ってないなあ。

男1 なんで？

男2 そりゃあやつぱり経営母体が同じだから、

男1 なんでスタバが無いと困るんだお前は。

女2 だってコーヒー好きだもん。

男1 コーヒーみちやどごだつて一緒だがや。

女2 贅沢な気分を味わいたい、私のささやかな贅沢なんですスタバのコーヒーは。あ、今日またコーヒー飲んでないや。あーあ。

男1 そついうもんか…。

女2 兄ちゃんはコーヒーが飲めません。刺激が強すぎてウンコしたくなつちゃうんです。私がたまに作る兄ちゃんのコーヒーは、砂糖とミルクをたっぷり入れて、よおくかき回して、最後にもう一度生クリームを掛けて、それは溶かさず白いコーティングが残った状態で出します。

女1の去った方から、やかんのお湯が沸騰する音が聞こえる。

女2 と、そんな事を考えていたら、コーヒーの匂いがしてきました。私も明日、目が覚めたらコーヒーを飲もう。うん、私は明日、コーヒーを飲もう。

女2、眼を閉じてうずくまる。

男1 そんなにコーヒー好きだったんか…。

5人の客、車に乗り込む。

しかも男2の横に1列に。

男1 わ！おい、お前ら何勝手に乗って来とんだ。どら重なるがや。

客達…。

男1 なんか言えて。

男2 なにコレ、随分幅の広い車だね。

男1 なんだてこの車、こんな軽トラックじゃねえがや。

男2 あ、そうなるこれ料金変わって来ますよ。

男1 どういう事？

男2 軽の上が普通、普通の上が大型、その上が特大になります。

男1 ちよお降りて。

男2 とうか、これじゃ横幅がかすぎて、料金所通れないかもね。

男1 ちよお降りて、頼むで。

客達…。

男1 なんでなんにも言わんのだて、どら恐いがやこいつら。

女1、戻って来た。

女1 お待たせしました。

男1 あ、お金持ってきた？

女1 えつと、幾らでしたつけ？

男2 195円。

女1 ああ…。

男2 それじゃあ足りないんですけどね。

女1 え？

男2 これ軽トラじゃないから。

男1 見てこれ、どらでつかなくてまったもん、この車。

女1 あら、これはずいぶん平べったい車ですね。

男1 だろお、ドアもねえくせに平べったいんだわ。

男2 この車、特大だから、750円。

女1 高！

男1 ちよお降りて！

客達 …。

男2 あります？

女1 それが…、その…、

男2 ん？

女1 やっぱりお店、無くなっちゃったみたいなんですけど。

男1 …は？

男2 え？

女1 今朝まではあったんですけど…。

男1 無いつてどついう事？

女1 おかしいなあ…。

男1 じゃあこいつらどこで買ったんだて。

女1 そつですよねえ…。

男1 それ、どこで買ったんですかあ？

客達 …。

男1 ほら、答えんだろお。

女1 ちよつとぐるつと一回りしてもらつていいですか？

男1 ぶーん。

女1 他のお店はそのままなのに…。

男1 なんでイオンの中で迷子になつとんだ。

女1 (女2を見る) …あら、寝てますね。

男1 もつ、ほつとけ。うるさいで。

女1 …いいんですか？

男1 何が？

女1 妹さん、心配してますよ。

男1 ぶーん。

女1 どこまで行く気なんですか？

男1 んなもん今更なんて言やあいいの？

女1 え？

男1 もうなんて言つたらいいのかわからんだわ…。いつも迷惑はつか掛けとるしよお…。

女1 …。

男1 スタバの店員さんイイ荷物をお届けるだけが、運送屋の仕事じゃないんですよ。何度も言いますが、

物じゃないんで。気持ちなんでね。走るしかないんですよ、俺にはもつ。

男2 お兄さん。

男1 なんだて。

男2 「ありがとう」でいいじゃないか。あのねお兄さん、感謝の言葉というのは、口で言う為にあるん

だよ。

男1 …(男2に) 誰だお前。

男2 私が誰かなんて、この話に全く関係無い！

男1 何しに出て来とんだてじゃあ…。

女1 お兄さん、車から降りましょう。どこまで行つても、ここは家ですから。

男1 …ウチの金も勝手に使つてまつたんだわ。

女2 はあ？！

女2、起きる。

女2、起きる。

男1 なんだお前、起きとつたんか。

女2 なにい？どついう事？私の財布から勝手にお金取つてつたの？

男1 ブーン。

女2 兄ちゃん！

男1 はい。

女2 道理ですつからかんなはずだわ、何考えとんの！？

男1 運送屋になりたいのはホントなのーそれはマジで考えとんの。だけど免許もねえし、トラック買う

金もねえしで、競馬で増やしたろうと思つたら全部無くなつてまつたんだわ。わかつとるーお前の言い

たいことはわかつとるーだでせめてお前の大好物のりんご買つて来たろう思つて、りんごつつたら青

森だもんで、とりあえず青森行こうと思つてブーン！

女2 ブーンじゃない！

男1 (立ち上がり) だからごめんて！いつもありがとう！

女2 …もつええわ。



男1 …。

女2 私りんご大好物なんて言った事ない。

男1 …嘘つけお前りんご好きだがや。

女2 りんご好きなんて話兄ちゃんとしてない。

男1 お前りんご食つとる時が一番イキイキしとるがや。

女2 りんご食つとる時が一番イキイキつてなに？チンパンジーじゃないんだ。

男1 お前それチンパンジーに失礼だろ。

女2 なにに、私には失礼じゃないって言うの！

男1 じゃあなんでりんご食つとる時あんなイキイキしとんだお前。

女2 りんごじゃなくなつて桃だつていちごだつて果物全般食へてる時はいつも同じ顔してるのうそかい  
なあ！

男1 …ああ、そうか。

間

女2 運送屋になりたいの本気なんだよね？

男1 うん、そうや。

女2 …本気なんだよね？

男1 うん、そうや。

女2 …、銀行行つてくる。

男1 え？

女2 定期解約してくる。

男1 …お前。

女2 もう、世話の焼ける人

女2、去る。

男1 …ちよお待てて！

女2 (戻つて来て) なにに？

男1 …乗つてけ。

女2 え？

男1、椅子に座る。

男1 スタバ、探しに行くぞ。

女2 …え？

5人 立ち上がり、歩き出す。

男1 俺の行く先は青森じゃなかった、青森間違えとつた。スタバだ。

女2 …兄ちゃん？

男1 乗れ妹！お前がスタバのコーヒー飲みたいんだつたら俺はどこまでも探しに行つたる。俺が届ける  
のは、荷物だけじゃねえんだぜ。

女2 …もお、わかつたわ！

女2、後部座席に乗る(立つ)。

男1 あれ？どこ行つたあいつら。

女1 (助手席に乗り込み) あそこです。

5人 歩いている。

男1 見とれよ、無免許の兄のドライビングテクニクを。

女2 …うん、なんて言つていいのかわからんけど、

男1 行くぜ(ギアを入れる仕草)！

女2 ラジャー！

男1 さきさきさきー！ぶおーん！

女1 お客さん轢かないで下さいね！

女2 兄ちゃん、あそこ。

男1 おう。

男1、クラクションを鳴らすか鳴らない。

男1 なんだこれ、鳴らんがや。

女2 (窓から身を乗り出して) すいませーん、それどこで売ってるんですかあ？

男2 クラクシヨン鳴らないと整備不良で捕まりますよ。そもそもこの車、どこに座席があるかわかりま

せんし

男1 お前が変なとこに座つとるでだろーあれ、どこ行った？

女2 上！

男1 おう。

客達のストローのズーザーが音楽になっている。

女2 兄の車はスタバの客の後ろを追ってエスカレーターを昇っていきます。時に細く、時に低くなりなが

らイオンを走る兄ちゃんの軽トラ。

男1 さささー！ぶーん。

男2 ショッピングカートに抜かれましたよ。

女2 フードコートの人混みをかき分け、三階のキッズランドをショートカット、四階の家系ラーメンの誘惑にも負けず突き進む。

客達、エスカレーターを降りる。

女1 降りていきますね。

男1 なんで昇ったんだじゃあ！

男2 上から流していく客のボタンですね。

女1 また一階。

男1 (鳴らしながら) クラクシヨン！クラクシヨン！

女2 エレベーターに乗るみたい。

男1 なに！？ブーン！ササ。

男1、エレベーターのボタンを押しながら、

男1 くそ、ビビりすぎてへん。

女2 一階、三階！

男1 はよろ(エレベータ)…、はよろ…、

女2 屋上！

客達によるストローの演奏、ここまで。

男1 よし！ブーン！キキ！

女2、屋上のボタンを押し。

皆、黙ってエレベーターの表示を見上げる。

長い間。

女1 …これ、車に乗ってる意味あるんですかねえ。

男1 …。

女2 着いた！

男1 よし…！(バック)ぴー、ぴー、ぴー、

女1 …車に乗ってる意味…

男1 ぶーん！

男2 屋上があるイオンなんて珍しいですよ、たいてい駐車場ですから、

男1 どこ行った(キョロキョロ)？

客たちの「ずずず」。

女1 あ、すいませーん？

客5の「ずずず」が「ど」の音になっている。

続いて、客6「れ」、客3「ふあ」、客2「そ」、客1「ら」になっている。

客1 …え？

女1 スタバって、どこにあるんですか？

客1 …え？

女1 それ、スタバのコーヒーですよねえ？

客2 あ、はい。

女1 …私、スタバでバイトしてるんですよ。でも今来たらお店が無くなってるのに気づいて…。

客3 ああ…。

客達 顔を見合わせる。

客3 ちょうど良かった。私達にはあと二つ、音が足りないんです。

女1 はあ。

客1 「シ、と」「シ」。

客3 この二つの音を出してくれるなら、スタバの場所教えてもいいです。

男1 何言っとんだあいつら…。

女1 それって、どうしたらいいんですか？

客4 まず、スタバでアイスコーヒーを買って下さい。

女1 はい。

客5 そしたらストローが手に入ります。

女1 はい、わかりました。(男1に) どうしましたよ？

男1 だでスタバの場所がわからんつつとるがや。

男2 ストロー買えはいんじやない？

女1 あのお、スタバの場所がわからないんですけどお…？

男2 ストロー買えはいんじやない？

客3 遠いですよ。

女1 どれくらい？

客3 そりゃあ…、

客5 遠いですよ。

客4 遠いなんてもんじやないです。

客2 遠いですよねえ？

客1 遠いよ。

客2 遠いです。

客3 遠すぎて逆に近いくらいです。

女1 …ん？

男1 なに「ちやんちやん」とんだ。俺は日本で一番目に速い運送屋だぞ。どろどろって行つたがや。

女1 つて言ってるんで、場所教えて貰えます？

客達 空の向こうを見る。

男1 (空を見据えて) お前ら降りろ、重いで。

皆 降りる。

女2 …兄ちゃん？

男1 見とけ、妹…。

男1、カーステのスイッチを入れる。

客達 「トッパガンのテーマ」をストローで。

女2 オザキじゃない…、都合の悪い時に歌うオザキじゃない。

男1 オザキだどどつか別んどこ飛んでつてまうからな。

女2 え、どこまで行くの？スタバなんか他にも…

男1 お前はホント伝わらん奴だなあ。お前みたいなのがおるもんで運送屋は大変なんだわ。ガチャン(キ

ア)。ぶおんぶおん

女2 兄ちゃん…？

男1 (サビと同時に) ぶおおおおん！

皆 男1の飛んでいった先を見る。

女2 兄ちゃんの軽トラは、世界初飛行可能な軽トラだった。そして空高く舞い上がった軽トラは、先ほ

どの両ハンドル軽トラの時のようにバラバラに分解されると思いきや！

男1 ぶおーん！

女2 遙か空の向こうにあるという、スタバめがけて飛んで行きました！明日になれば売っている、明日のコーヒーを求めて！

男1 ぶーん〜！

皆 ありがとう、日本で一番目に速い運送屋！そしてありがとう！日本一の運送屋！！

皆 手を振って見送る。

男1 ぶん！

男1、突然運転を止めて、部屋を出て行く。

（終）

この戯曲の著作権は、作者である平塚直隆にのみ帰属するものです。  
上演許可あるいはその他のお問い合わせは、作者の所属する「オイスターズ」どうぞ。

■ オイスターズ ■

ホームページ

<https://oysters.official.jp>

メールアドレス

[theatrical\\_unit\\_oyster@yahoo.co.jp](mailto:theatrical_unit_oyster@yahoo.co.jp)